



HULFT10 for Container Services 紹介資料

株式会社セゾンテクノロジー

目次

■製品ラインナップの紹介

- HULFT10の製品ラインナップ
- HULFTラインナップの拡張

■リリーススケジュール

- HULFT10 リリーススケジュール

■HULFTの今までとこれから

- HULFTが提供してきた価値
- HULFTを取り巻く課題
- クラウドネイティブなHULFTが新たに提供する価値
- HULFTのクラウドネイティブ対応
- HULFTがクラウドネイティブになる必要性

■HULFT10 for Container Services とは

- 30年の環境変化で生まれた境界線を超える
- HULFT10 for Container Servicesとは
- 管理コンテナ
- 転送コンテナ
- HULFT10 for Container Servicesの操作
- HULFT10管理画面

■想定ユースケース

- ①クラウドシフトした周辺システムと基幹システムの連携
- ②閉域／インターネットが混在する外接業務
- ③基幹システムにあるデータを活用するSaaS

■想定ユースケース（詳細）

- 不動産仲介業の場合

■よくあるご質問

- よくあるご質問（HULFT10 for Container Servicesについて）
- よくあるご質問（HULFT10全体について）

■課金体系

- スケーリング時の料金
- 料金

■サポート

■Appendix

- 基本機能（HULFT8対比）
- HULFT10 for Container Servicesの基本機能（詳細）
- HULFT10 CLIの基本機能（詳細）
- 各製品との通信保証・連携互換性
- 環境一覧（HULFT10 for Container Services
- HULFT10環境構成について

製品ラインナップの紹介

HULFT10の製品ラインナップ

HULFT10の製品ラインナップは、下記4つです。

HULFT10 for Linux etc..

これまでの**HULFTのバージョンアップ製品**です。
HULFTをご利用中のお客様が引き続きご利用する場合や、
新規にHULFTをご利用する場合にご検討ください。

HULFT10 for Container Services

コンテナによりシステム構築された環境に導入可能なHULFTです。
各クラウドサービスのMarketplaceからコンテナイメージとして利用します。

HULFT10 for Container Platform

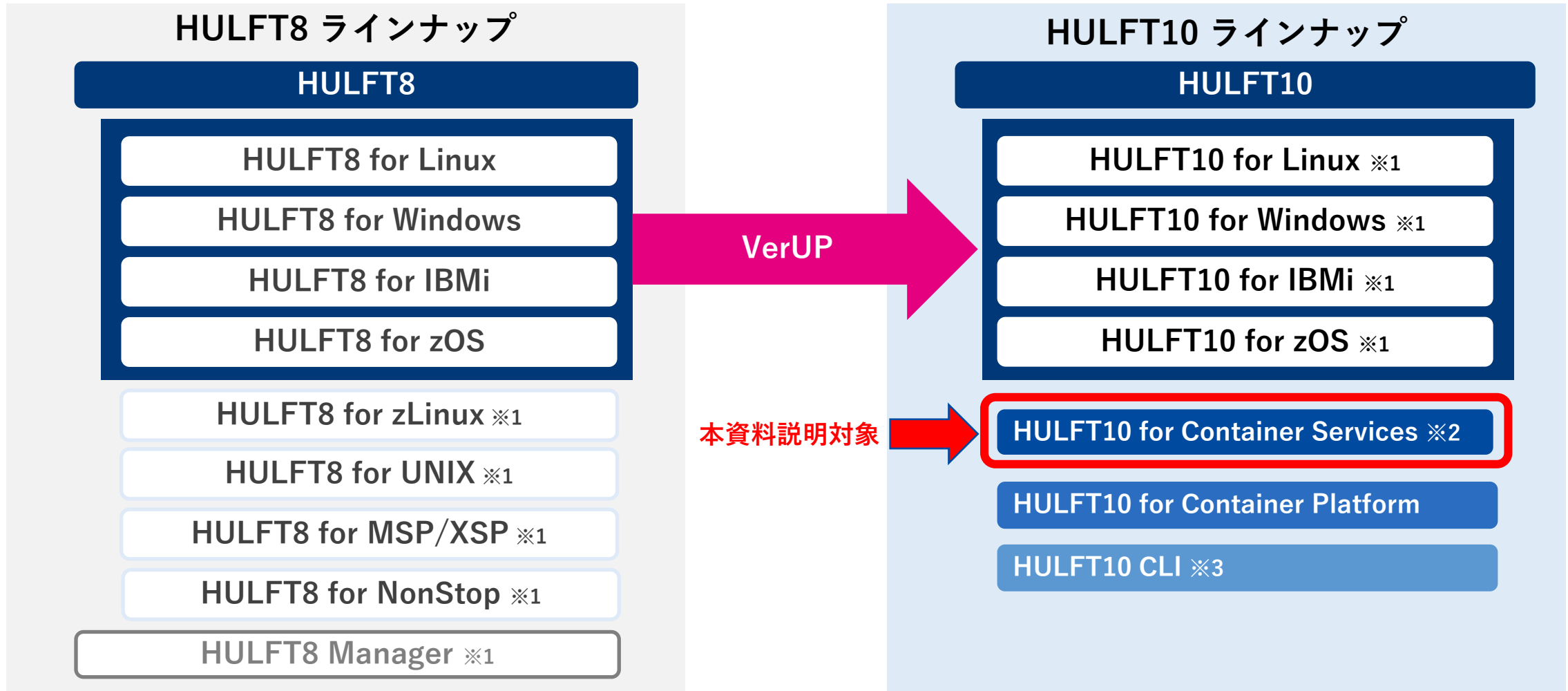
コンテナによりシステム構築された環境に導入可能なHULFTです。
コンテナイメージを自社環境にダウンロードして利用します。

HULFT10 CLI（仮称）※

機能が限定された**コマンドモジュール形式のHULFT**です。
HULFT10をご利用中のお客様がHULFT未導入先とのファイル連携を**インストール不要**かつ費用負担なく実現します。

※現時点は開発者版のみの提供を予定しています。正式リリース日は未定です。以降の表記は「HULFT CLI」とします。

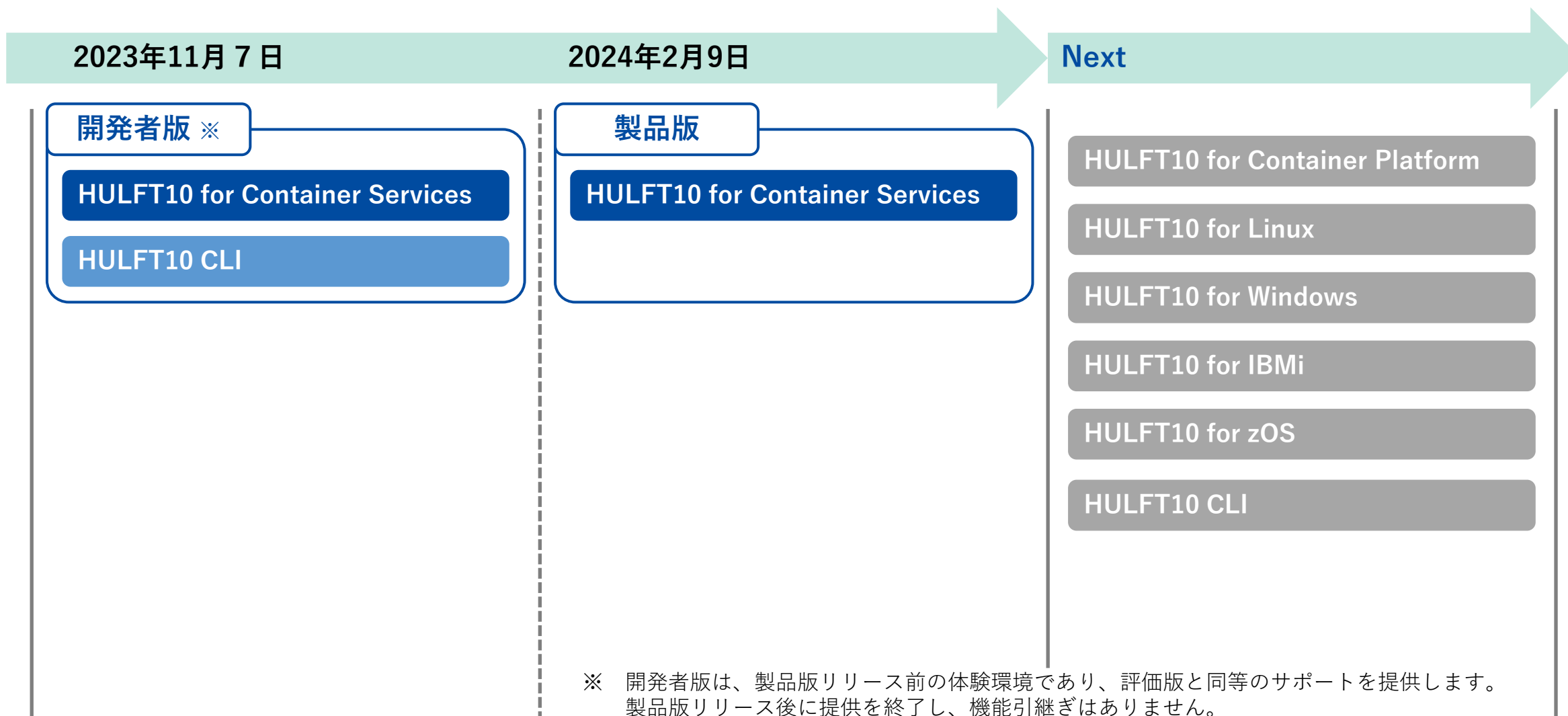
HULFTラインナップの拡張



※1 バージョンアップ対象は現時点のものであり、詳細確定は検討中です。
※2 1stリリースは、HULFT10 for Container Services のみ対応します。
※3 現時点は開発者版のみの提供を予定しています。正式リリースは未定です。

リリーススケジュール

HULFT10 リリーススケジュール



※ 開発者版は、製品版リリース前の体験環境であり、評価版と同等のサポートを提供します。
製品版リリース後に提供を終了し、機能引継ぎはありません。

※ バージョンアップ対象は現時点のものであり、詳細確定は検討中です。

HULFTの今までとこれから

HULFTが提供してきた価値

制約なく自由に、リスクを減らし安全に「システム間のデータ連携業務」を実現
業務システムの長期安定稼働に貢献

制約なく自由に		リスクを減らし安全に	
連携効率上昇	連携先の制約・事情に縛られずに連携できます。	可用性担保	高可用性の構成で構築可能、障害発生時は容易に復旧できます。
構築効率上昇	運用自動化に必要な機能を開発不要ですぐに使えます。	完全性担保	データの欠落・改ざんなくシステム間で確実に連携します。
運用効率上昇	手間がかからず少ない学習コストで誰でも使えます。	機密性担保	法令・セキュリティ基準に準拠しデータ漏洩を防ぎます。

HULFTを取り巻く課題

購入リードタイム

見積や申請など、契約締結までのやりとりや調整に時間がかかる。

専用線・VPNが必要

導入には専用線やVPN設置など時間とコストがかかる。

HULFT



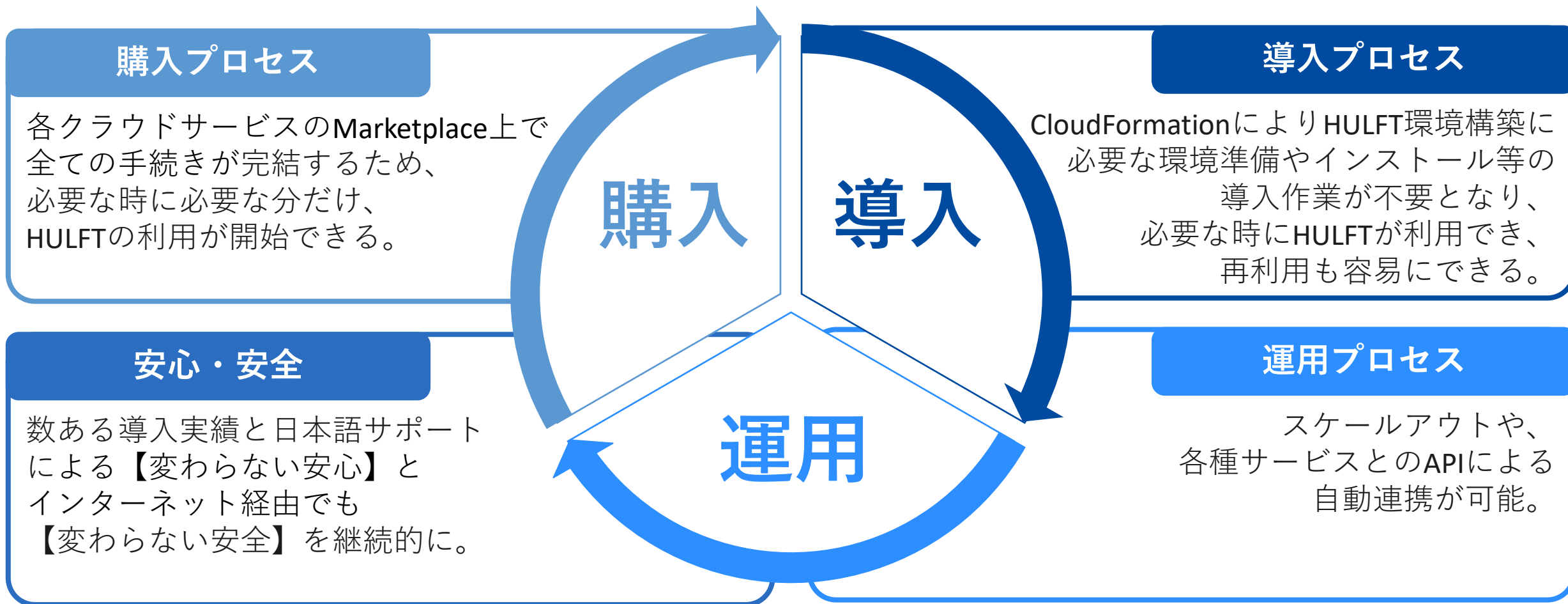
環境構築

環境構築までに必要となる準備や調整に時間がかかる。

SaaS市場の利活用

SaaSサービス活用の中でオンプレHULFTを利用することが困難。

クラウドネイティブなHULFTが新たに提供する価値



一連のプロセス変化を後押しに、ビジネススピードに追随するHULFTが新たな価値を提供します。

HULFTのクラウドネイティブ対応

DXのバラバラをスルスルに。
HULFTの「つなぐ」は進化を続けます。

HULFTは、1993年のリリース以来、時代の要求に応え続けました。
HULFTリリースから30周年を迎えた現在でも、
ファイル転送のデファクトスタンダードとして愛され続けています。

HULFT7
ファイル連携の
デファクトスタンダード

パフォーマンス向上

- 転送速度の向上
- 監査ログ対応

2008年

HULFT8

運用/導入の負荷軽減

HULFT7からの
機能追加、性能向上

- 転送速度の向上
- セキュリティ強化
- サイレントインストールによる
運用コストの削減
- 運用支援機能の追加

2014年

HULFT8

クラウドストレージオプション
クラウドリフト/
クラウドシフト対応オンプレミスから
クラウド環境への連携

- クラウドストレージへの直接
連携によるセキュリティ向上
と運用負荷の軽減

2019年

HULFT10

クラウドネイティブ
対応

HULFTをコンテナサービス化

- 必要な時に必要な分だけHULFTを利用
- スケーリング設定やAPI連携等の
新たな価値を提供
- インターネット経由での安全なファイ
ル連携

何故HULFT10なのか

HULFT30周年記念リリース
単純VersionUpではない大きな進化

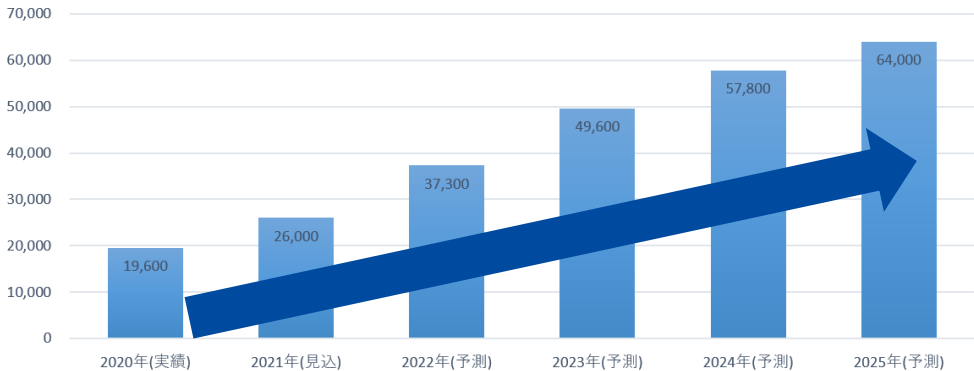
2024年

2024年2月リリース

HULFTがクラウドネイティブになる必要性

HULFTはコンテナオーケストレーション環境で新たな価値を提供します

コンテナオーケストレーションの市場規模推移
(単位：百万円)



引用：富士キメラ総研「2022 クラウドコンピューティングの現状と将来展望 市場編」

※CAGR算出の対象期間：2020年～2025年の5年間

仮想／物理サーバー 年平均成長率（CAGR）12.9%

コンテナオーケストレーション 年平均成長率（CAGR）26.7%

出典：富士キメラ総研「2022 クラウドコンピューティングの現状と将来展望 市場編」

2020年以降、コンテナオーケストレーションの市場規模は拡大し、**2025年に向けて約3倍成長**の予測。仮想／物理サーバー対比で、2020年からの5年間における**CAGR（年平均成長率）は約2倍**。

お客様を取り巻く市場変化に対応できるよう
HULFTも変化する必要があります。

コンテナを利用する企業の例

クラウド	コンテナ管理サービス	利用企業（利用システム、既存/新規）
AWS	Amazon Elastic Container Service(ECS)	KDDI（コンシューマ向けデジタルウォレット） コーセー（店舗顧客管理や顧客ID基盤）
	Amazon Elastic Kubernetes Service(EKS)	MIXI（「家族アルバム みてね」関連） クレディセゾン（社内API基盤システム）
Microsoft Azure	Azure Kubernetes Service(AKS)	コニカミノルタ（APAC向け基幹システム） ブリヂストン（デジタルソリューション向けシステム）
Google Cloud	Google Kubernetes Engine(GKE)	MIXI（「モンスターストライク」関連） ジェーシービー（新規サービスの共通プラットフォーム）

引用：日経コンピュータ 2023年9月14日号 P.30 下部図

HULFT10 for Container Services とは

30年の環境変化で生まれた境界線を超える



クラウドネイティブ

コンテナ対応、オートスケール



インターネット利用

インターネットダイレクト接続



APIエコシステム

APIによる外部システム連携



購入方法

AWS Marketplace/従量課金

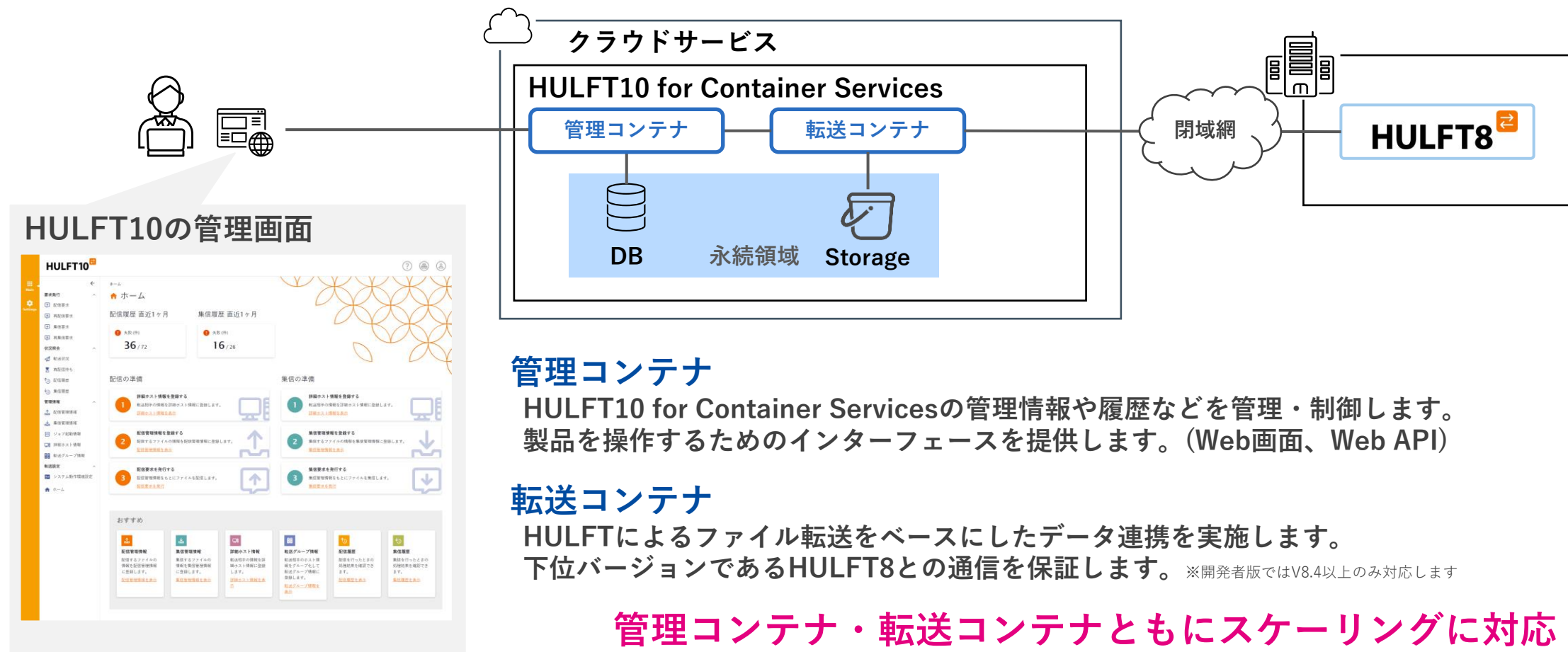


世代間GAP

UI/UXの刷新/ベストプラクティスに準拠

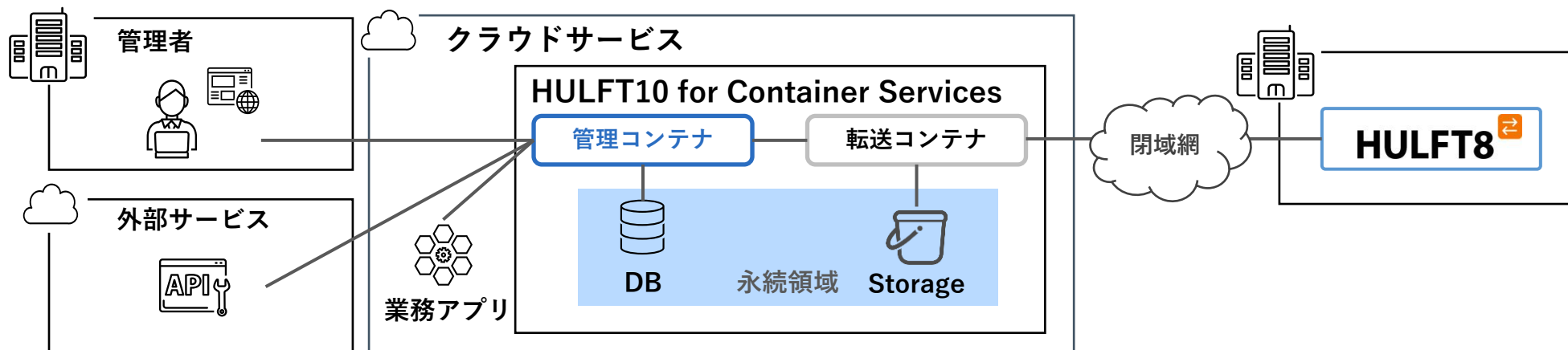
HULFT10 for Container Servicesとは

コンテナオーケストレーション技術を採用したHULFT



管理コンテナ

- HULFTの管理情報や履歴などを管理します。APIによるジョブ連携や、転送コンテナの制御等を管理するWeb画面を提供します。



■ 管理コンテナの特長

GUIによる設定管理

ブラウザベースの管理画面から、HULFTの設定や管理ができます。

API連携

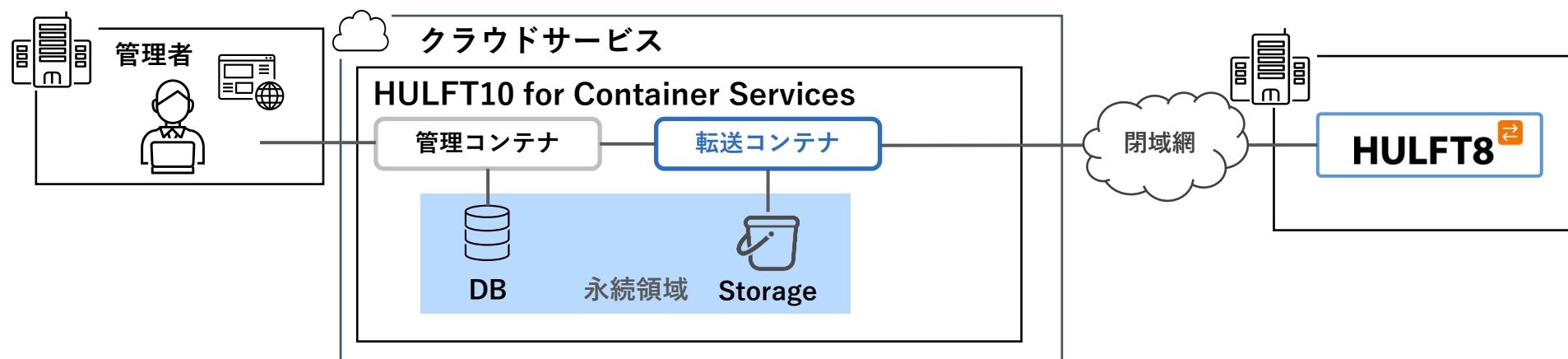
外部サービスや業務アプリとの連携はAPIで簡単に接続可能です。

設定やログの外部保管

管理情報や履歴は、コンテナから独立した永続領域に保存され、別コンテナへの引継ぎやバックアップが容易です。

転送コンテナ

- HULFTによるファイル転送をベースにしたデータ連携をします。



- 転送コンテナの特長

負荷への耐性

転送負荷に応じて、自動で転送コンテナが起動するため、必要なリソースを柔軟に確保します。

障害への耐性

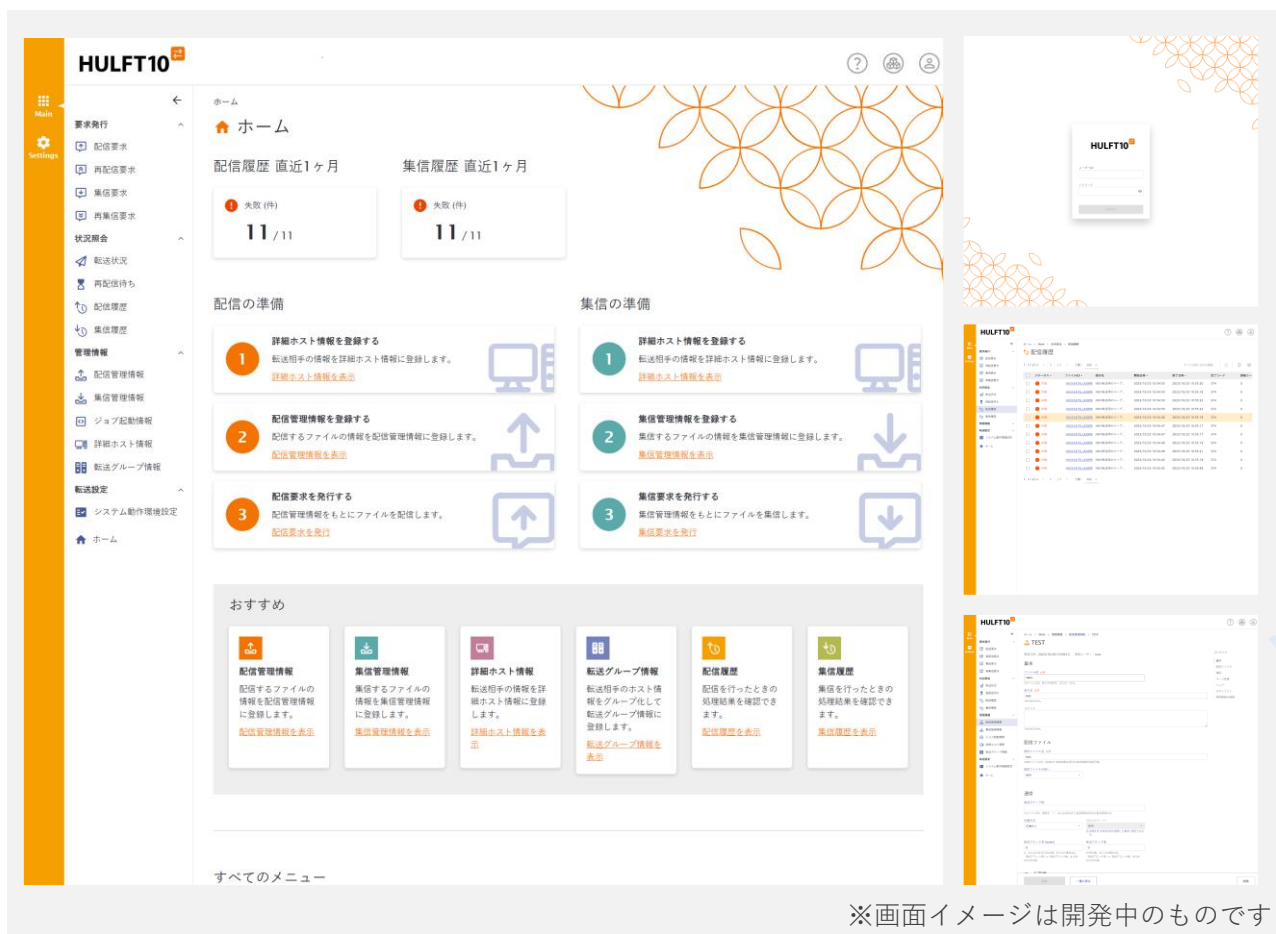
万が一、障害が発生した場合、別コンテナが自動起動するため、サービスの可用性と業務継続性を確保します。

HULFTとの通信可能

HULFT8との通信を保証しているため、HULFT連携を利用したデータ連携基盤を構築可能です。

HULFT10 for Container Servicesの操作

製品操作のインターフェースはWeb画面とWeb API



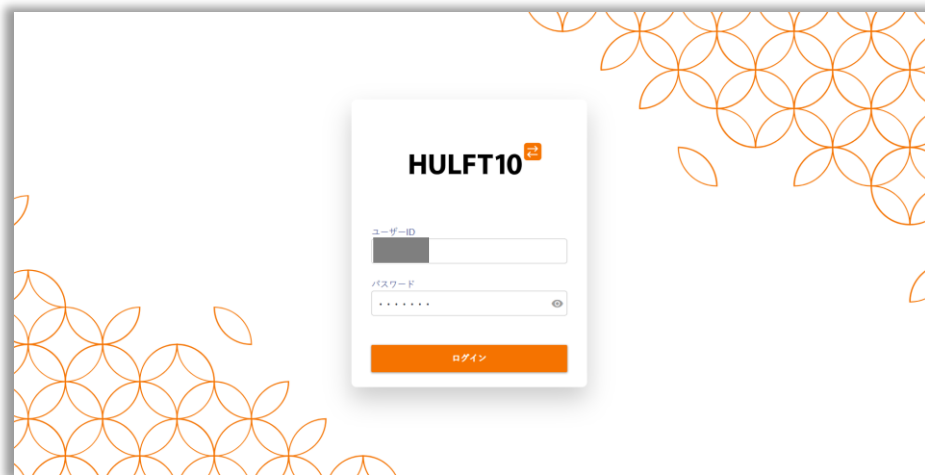
※画面イメージは開発中のものです

Web API

- ログイン
- ログアウト
- 配信要求
- 再配信要求
- 送信要求
- 再集信要求

Web画面

HULFTブランドデザイン
の採用でイメージを一新
UI/UXも大幅に改善



集配信エラー履歴

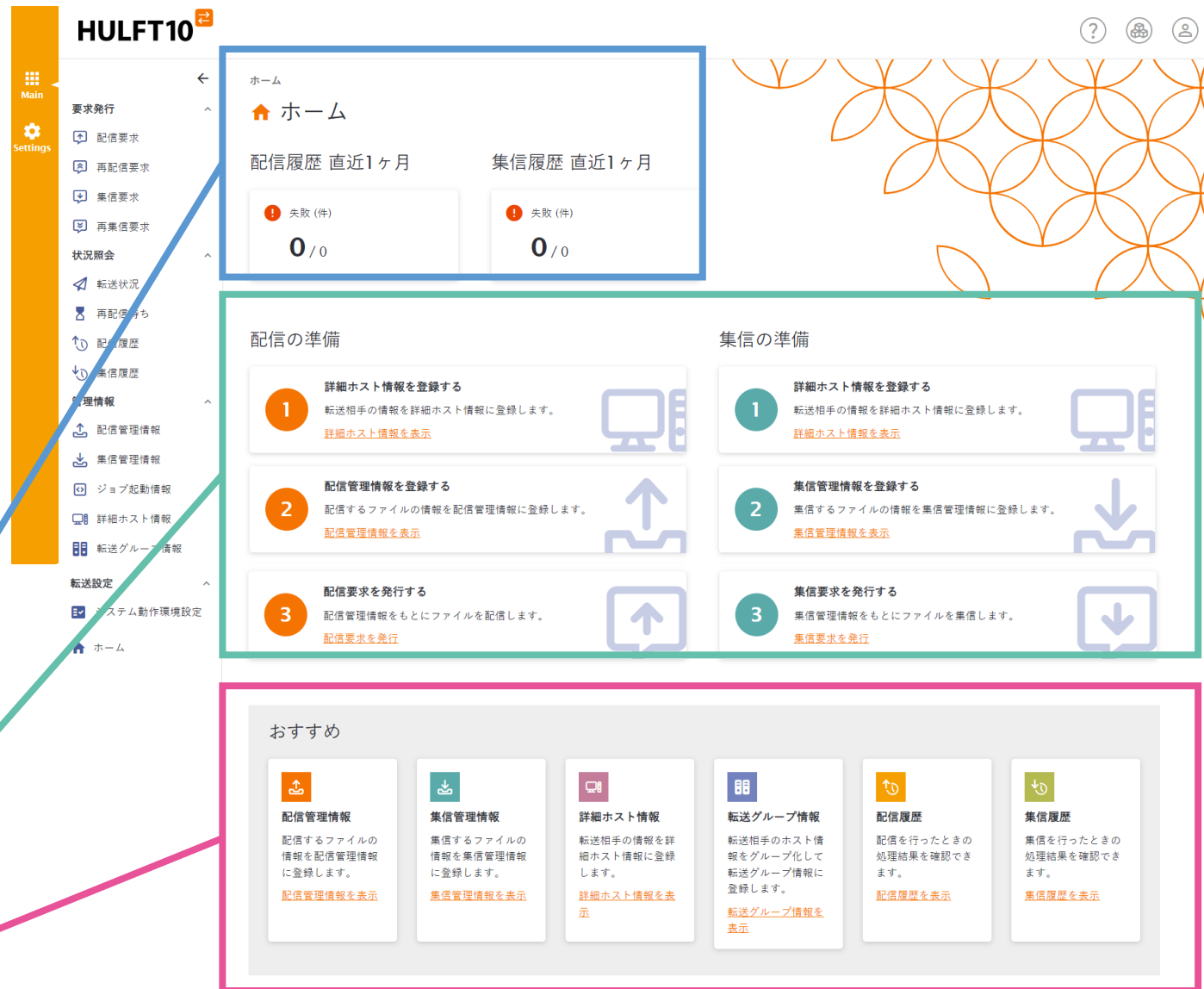
管理画面ログイン時に、ファイル転送時の異常を即座に把握できる月次集計を掲載します。

簡易マニュアル

詳細マニュアルを見ずに最低限の設定ができるよう設定順の概略を掲載します。

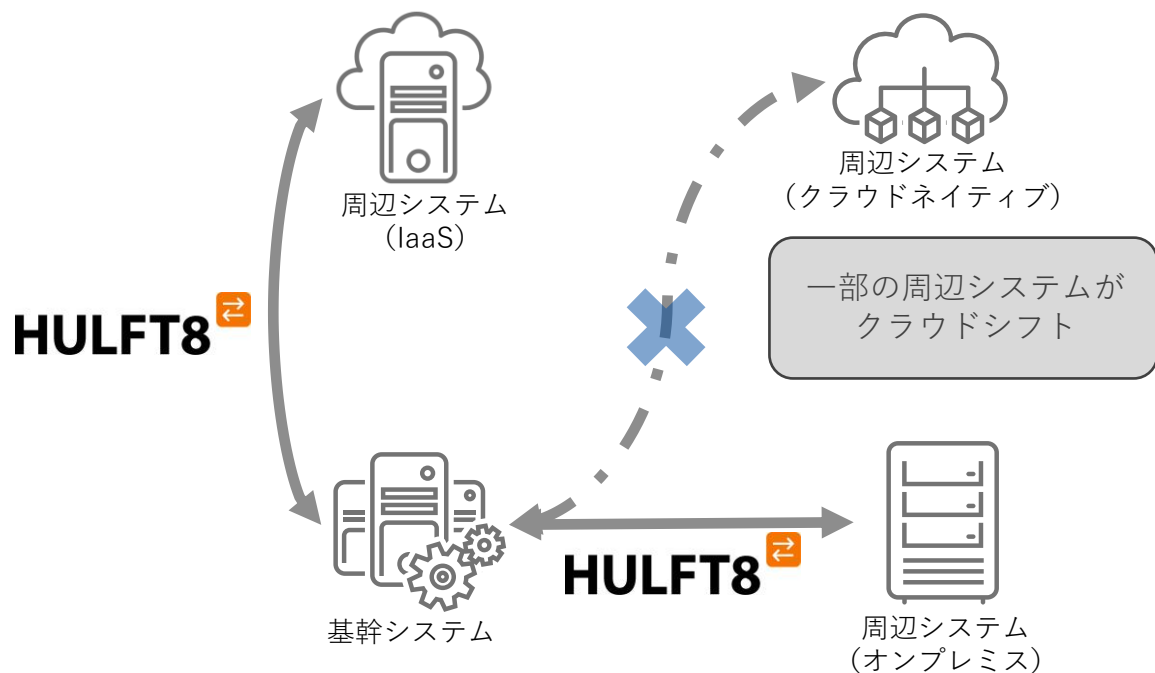
おすすめ

HULFT管理でよく使われるおすすめページのリンクを掲載します。



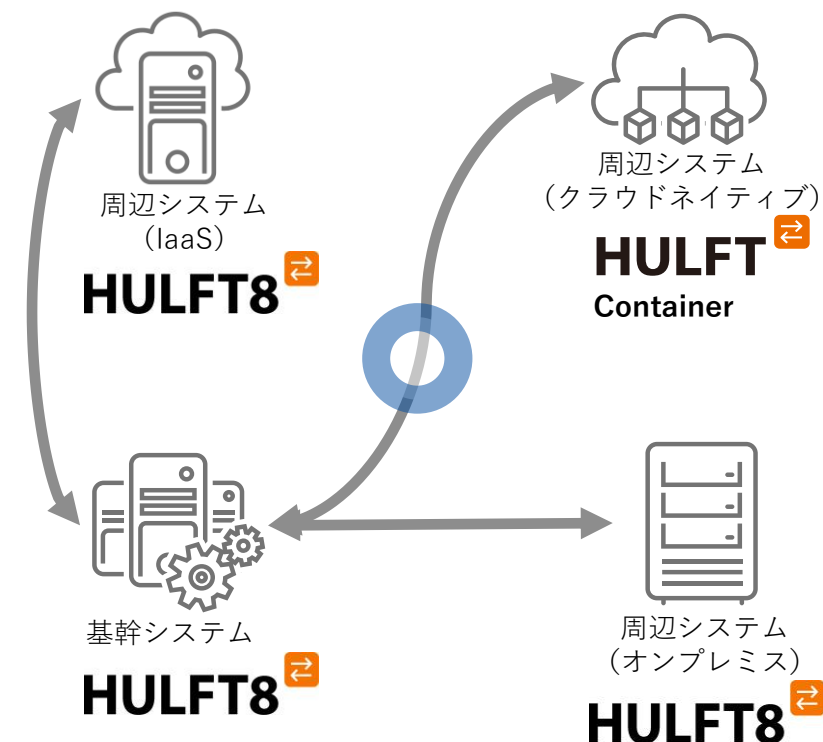
想定ユースケース

①クラウドシフトした周辺システムと基幹システムの連携



想定課題

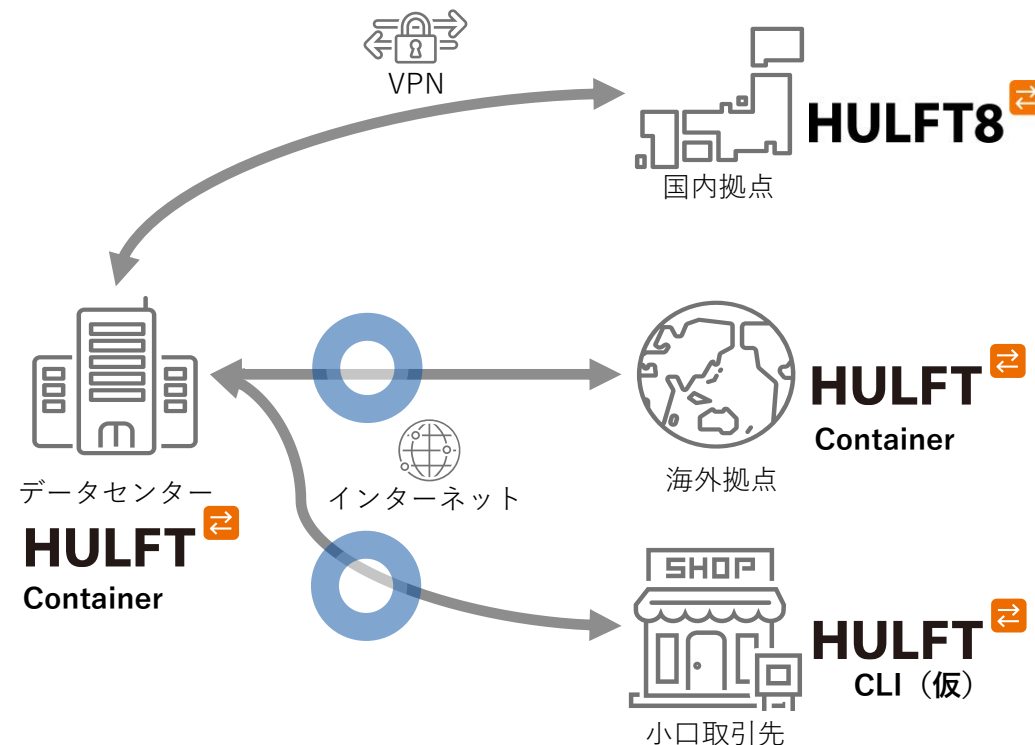
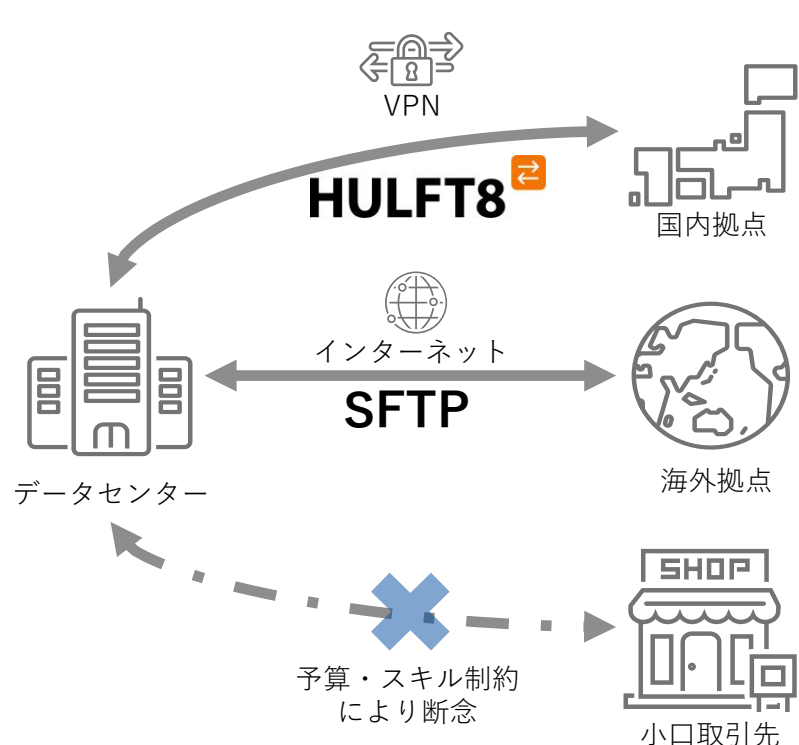
- 基幹システム側に手が入れられないため、従来の仕組みでの連携か疎結合なシステム連携でないと対応できない
- 周辺システム側はクラウドネイティブな作りにしたいが、基幹システム側との連携はレガシーな仕組みを採用せざる得ず運用負荷が高い



想定解決策

- HULFT8とHULFT10 for Container Servicesで課題解決可能

②閉域／インターネットが混在する外接業務



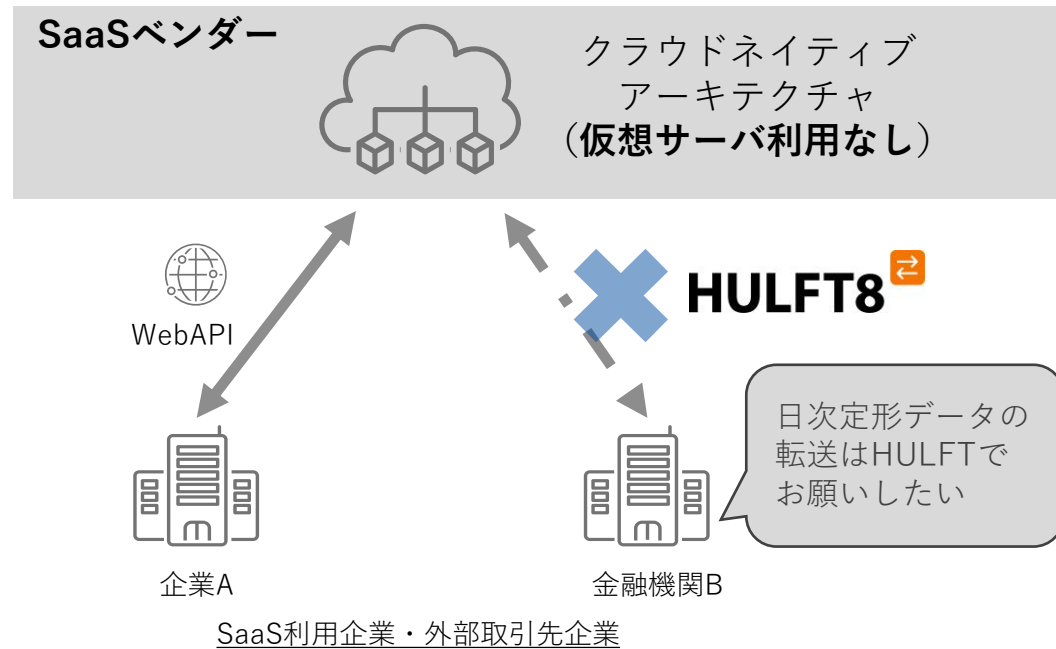
想定課題

- 取引先によって閉域網、インターネット通信網どちらを希望するかが異なり両方を用意する必要がある
- 閉域とインターネット通信で求められるスキル技術が異なり学習コストが高い
- IT人材はもっと優先される業務に配置されるため、複数のシステム運用するのは業務負荷に繋がっている
- 取引先がいる業務のため、システムを止めてメンテナンスする際の調整が大変

想定解決策

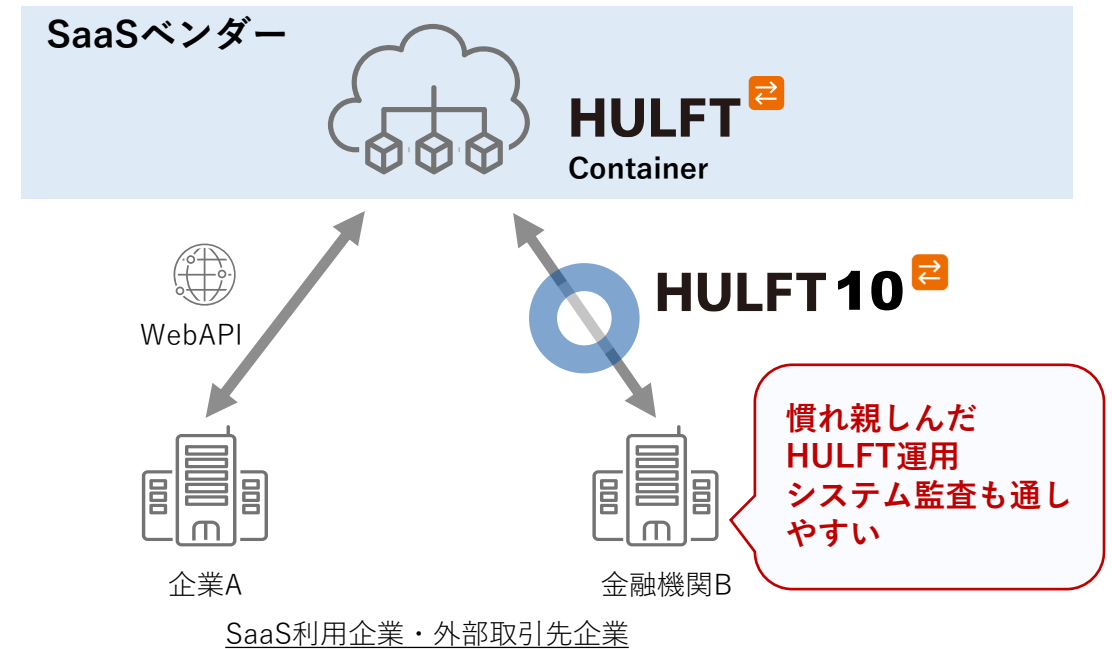
- HULFTとHULFT CLIで課題解決可能
- 通信手段を1つに集約

③基幹システムにあるデータを活用するSaaS



想定課題

- SaaSベンダーの大手取引先や利用者からデータの転送方法としてHULFTを指定されることがある
- 自社SaaSの連携インターフェースとしてHULFTの採用が困難



想定解決策

- クラウドネイティブな構成においてもHULFTの導入が可能に

想定ユースケース（詳細）

※本章はP21の想定ユースケースの具体的な業務イメージです。

不動産仲介業の場合

1.事業概要

2.課題

3.アプローチ

4.効果



賃貸仲介・売買仲介各業務の効率化 optimization & modernization

不動産売買仲介を主軸に、
土地や戸建ての開発や賃貸仲介を推進。
数年前に、
老朽化したレガシーシステムから
周辺システムをクラウド移行。



クラウド移行でも解決しない課題

1.事業概要

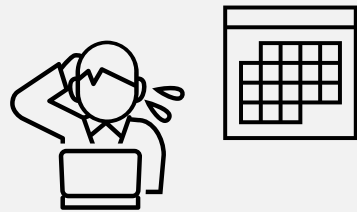
2.課題

3.アプローチ

4.効果

法改正への対応

法改正の**施行日までに対応**が必要。



事業拡大に伴う業務量増加

事業拡張による**業務負荷**が上がっている。



不定期かつ急な法改正への対応や拡大する事業など、
会社を取り巻く**ビジネス環境の変化**に対応が追い付かず、負担となっています。

お客様が取り組んだ課題解決アプローチ

1. 事業概要

2. 課題

3. アプローチ

4. 効果

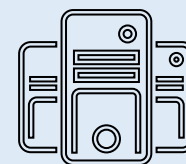
アプローチ

業務課題を、**迅速なシステム更改**で
解消していく業務フローを構築。



手段

ビジネス環境の急速な変化に対応可能な
クラウドネイティブなシステム
への更新を実施。



従来のシステム

長期的な開発サイクル

計画的なリソース設計

システム単位の開発



クラウドネイティブ

短い開発サイクル

柔軟なリソース管理

機能単位の開発

クラウドネイティブ化の効果

1.事業概要

2.課題

3.アプローチ

4.効果



時代のスピードやニーズに柔軟に対応できない



一部機能を改修するのにもかなりの工数がかかる



システム刷新は連携先システムへも影響大



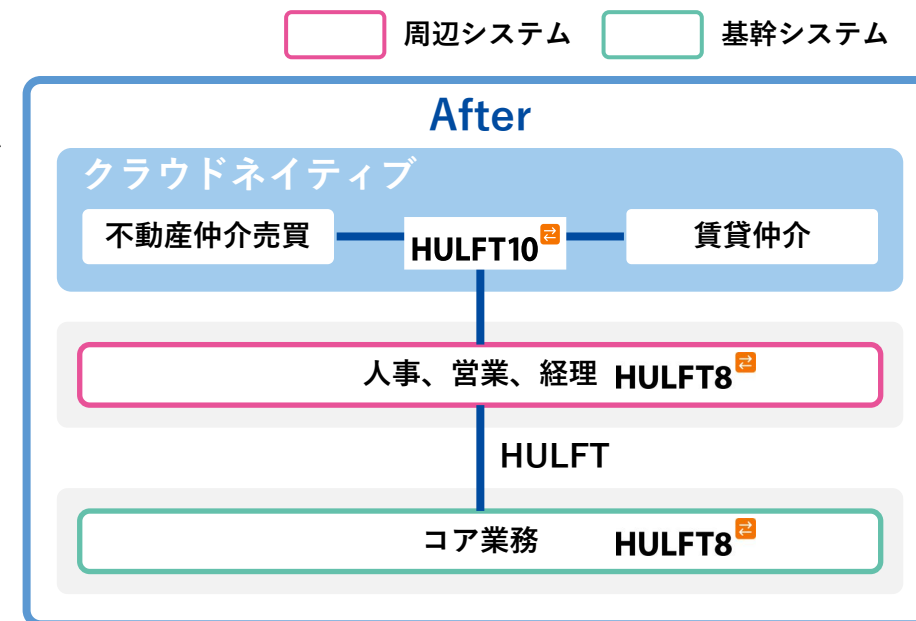
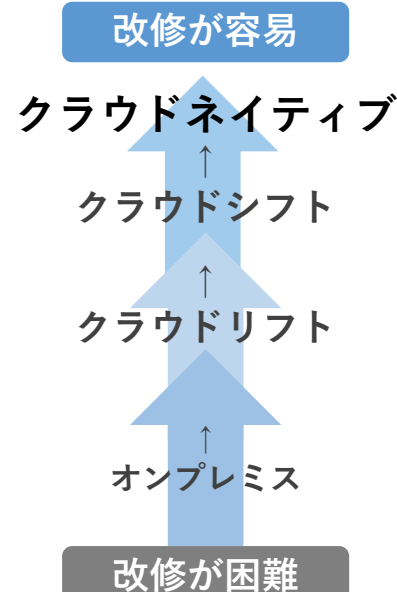
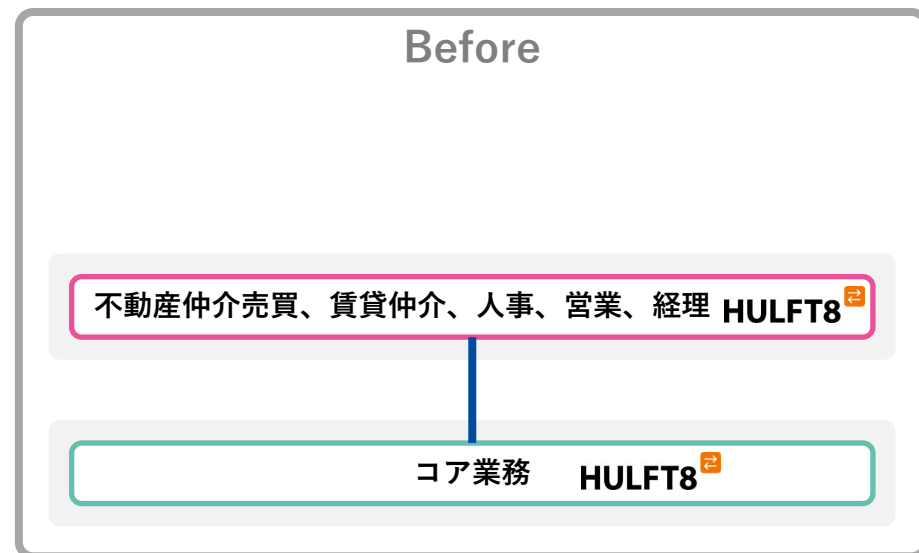
法改正や急速な事業拡大に素早く対応できる



機能ごとに段階的なクラウドシフトを実現

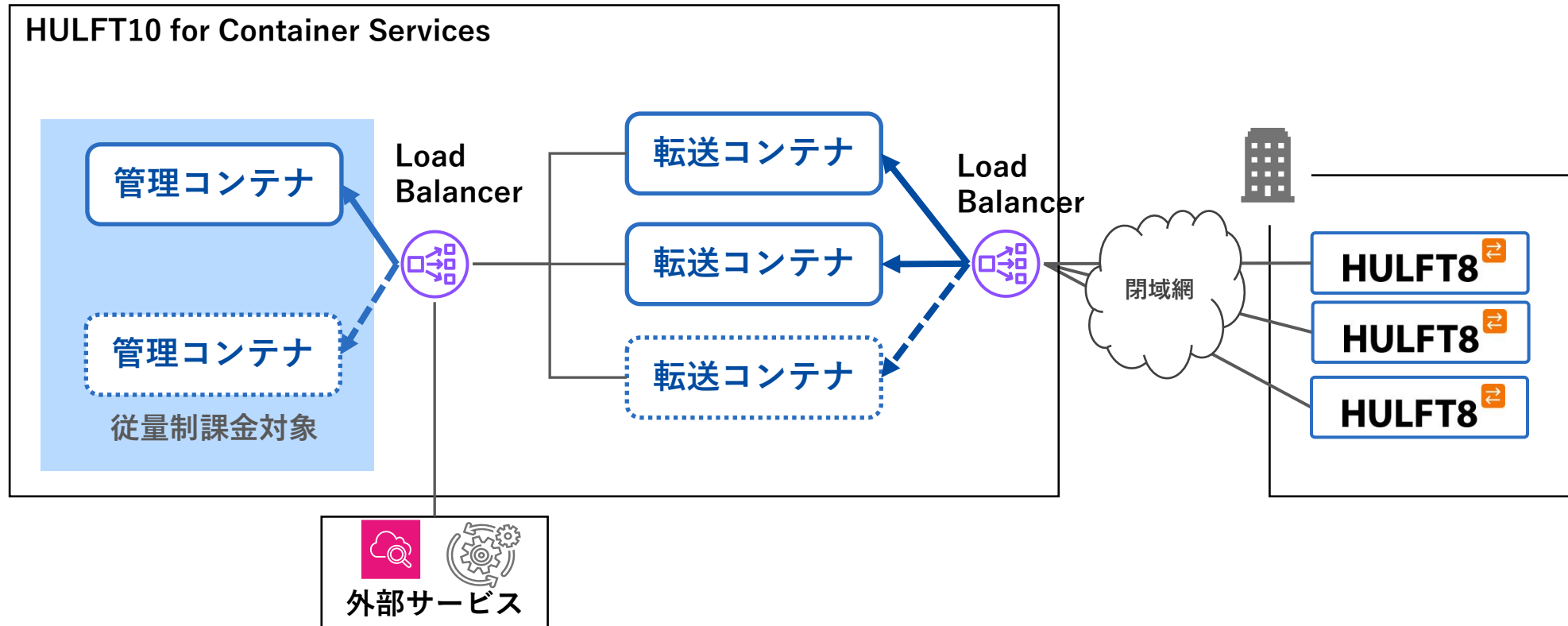


コンテナ版HULFTにより既存システムへの影響なし



課金体系

スケーリング時の料金



業務負荷が増えてスケーリングする場合、**管理コンテナの利用時間**に対して課金。
転送コンテナは課金されません。

※別途コンテナ環境やロードバランサーなどの料金が発生します。

提供サービス	価格	ご請求
無料トライアル	無償※1	-
有料サブスクリプション	従量制課金 2.3ドル/1時間※2	月額 (月末締め)

※1 サブスクライブ開始日から31日が経過するとトライアルが終了し、従量制料金で引き続きご利用いただけます。

※2 最新価格は、AWS Marketplaceにてご確認ください。

サポート

HULFT10 for Container Services の技術的なご質問をされる場合は以下の手順を行っていただきますようお願いいたします。

ご購入された際のAWSIDと契約ID(Agreement ID)をご確認のうえ、下記のフォーム内容に従ってその他必要事項をご登録ください。



<MSForms>

<https://forms.office.com/r/i5LMpth6Fh>

ご登録後、後日窓口情報をメールでご案内いたします。

契約ID(Agreement ID)が不明な場合、以下の手順でご確認ください

1. AWSマネジメントコンソールを開く
2. AWS Marketplace Subscriptions のサービスを開く
3. 製品名 HULFT10 for Container Servicesのサブスクリプションを開く
4. 契約ID (Agreement ID) 「agmt-xxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxxx」を確認する

よくあるご質問

よくあるご質問（HULFT10 for Container Servicesについて）（1/2）

No.	質問	回答
1	開発者版はいつまで公開されますか？	製品版リリース後に公開を停止します。
2	開発者版から製品版への移行はできますか？	開発者版から製品版への移行はできません。
3	HULFT10 for Container Services は、SaaSとしての提供をしますか？	パッケージ提供のみで、ご用意頂いた環境での利用となります。 マネージド・サービスが必要な場合は、HULFT Squareをご検討ください。
4	管理コンテナ（HULFTの管理画面）のUIは、HULFT8の管理画面と異なりますか？	新しいUIとなります。管理コンテナは、ブラウザから接続し、HULFTを管理・運用できます。
5	HULFT8等の既存のHULFTからの移行はできますか？	移行はできません。 また、移行ツール等のご用意はありません。
6	買い切りモデルの販売はありますか？	予定していません。年間契約と分単位の従量課金をドル建てでご用意しております。※詳細は別資料をご参照ください。
7	サポートポリシーは今までと同じですか？	新ライセンスポリシーが適応されます。
8	機種共通マニュアル（新機能非互換、コード変換、機能マニュアル、暗号マニュアル）はありますか？	ありません。 FY24の他機種のリリースに合わせてご提供予定です。
9	サポート範囲はどこまでですか？	コンテナモジュールやCloudFormation等の定義情報がサポート対象となります。 稼働環境そのものはサポート対象ではありません。
10	HULFT10 for Container Servicesはパートナー様は販売できますか？	初期リリース時点では販売できません。 但し、Marketplace上の製品をパートナー販売できるプログラムがありますので、今後活用を検討します。

よくあるご質問（HULFT10 for Container Servicesについて）（2/2）

No.	質問	回答
11	価格はどこに掲載されますか？	AWS Marketplaceの出品サイトに記載します。 価格表などへの記載は予定していません。
12	パートナー様に問い合わせが来た場合、パートナー様はどこに問合せすればよいですか？	購入に関わる問合せ　： info@hulft.com 製品に関わる問合せ　： サポート問合せ先（※Marketplace記載）
13	リソースはすべてお客様のAWSアカウントの中に作られか、SaaSのようなリソースはありますか？	全てお客様のAWSアカウント上に構築され完結します。
14	作成されたVPCの中身はお客様にてどこまでカスタマイズ・設定しなおすことを許可されていますか？	CloudFormation+ライセンスドコンテナを提供しています。自動生成する各種リソースへの変更設定の制限は設けていません。
15	DR対策についてのガイドはありますか？RDS・EFSの別リージョンへのバックアップのみでコールドスタンバイ・ウォームスタンバイの要件に対応できますか？	現状、マルチリージョンやコールドスタンバイ等には対応していません。今後の製品対応を検討中ですので、その中でガイド含め作成検討します。
16	デプロイ後のアップデート対応について、HULFTコンテナや依存するRDSのバージョン等が変わる場合のサポートなどについて教えてください。	HULFT/コンテナの更新の可能性はありますが、アップデートのプロセスを明確に定義したものは現状ありません。今後準備します。
17	従量課金となるが、夜間バッチの間だけコンテナを起動するなどの利用方法が可能になりますか。	可能となります。但し、コンテナを自動起動/停止する場合は下記のようなリスクについてご注意ください。 ・夜間バッチでエラー発生後、自動リトライして処理継続中だが時間が来て停止してしまう ・通信相手側主導で調査するような際に、疎通確認が行えない

よくあるご質問（HULFT10全体について）（1/2）

No.	質問	回答
1	パートナー様はコンテナ版のHULFTを販売できますか？	FY24下期にパートナー様も販売可能なHULFT10 for Container Platformのリリースを予定しています。
2	HULFT10 for Linuxなどのバージョンアップ製品のリリースは、いつ頃を予定していますか？	FY24下期予定です。2024年HULFT Technology Daysでの発表を予定しています。
3	HULFT10 for Linux等のバージョンアップ製品の価格は決まっていますか？	未定です。
4	HULFT10 CLIのリリースはいつ頃を予定していますか？	HULFT10 CLIは、FY24リリース予定です。
5	HULFT8の販売終了はいつ頃を予定していますか？	FY24に該当機種の最新版リリースに合わせて告知予定です。
6	UNIX/zLinux/MSP/XSPのリリース予定はありますか？	いいえ、リリース予定はありません。
7	HULFT10 for Linucなども買い切りモデルはなくなりますか？	未定です。
8	HULFT10 CLIは、2月のHULFT10 for Container Servicesリリース以降はどういう扱いになりますか？	HULFT10 CLIは、2月以降も変わらず開発者版として提供を続けます。

よくあるご質問（HULFT10全体について）（2/2）

No.	質問	回答
9	HULFT8 からHULFT10の下位互換性について懸念があれば知りたいです。	クラウド上でHULFT Web Connect とHULFT 8 で組合わせている場合、HULFT10がHULFT Web Connectにまだ対応しておりません。 一時的な制約であり、今後のロードマップとしては検討を進めます。
10	HULFT8の今後のサポートや継続利用・バージョンアップ支援に対して何か共有できる方針はありますか？	HULFT10へのバージョンアップ対象機種についてはHULFT10リリース後、以下ポリシーに沿って最低10年はサポート予定です。 https://www.hulft.com/support/hulft-techsupport-policy HULFT8のライセンス・保守費用については現時点未定です。
11	オンプレからの移行だけでなく、既存のAWSクラウド上のHULFT8 On EC2からの移行について費用削減となるか意見を伺いたいです。	HULFT10は「年額 or 時間課金」である一方で、HULFT8は「買い切りライセンス+保守込みの費用」となるため、比較が難しいです。
12	全体の費用感覚として、他のAWSリソース込みの超概算はありますか？	ライセンス費用は、\$2.30 /Container/Hourです。 ライセンス費用は、管理コンテナのみに発生し、転送コンテナをいくつ立ち上げてても変わりません。 ※AWSリソースを含めた全体費用の概算は、準備中です。
13	今後年間契約が出てくる予定、組合わせて利用は可能ですか？	年間契約と従量課金の並列利用は可能になる予定です。

Appendix

基本機能（HULFT8対比）

機能概要※		HULFT10 for Container Services	HULFT CLI	HULFT8 for Linux
1	配信	○	○	○
2	集信	○	△（Getのみ）	○
3	送信/再送要求発行	×	×	○
4	集信/再集信求受付	○	△（発行のみ）	×
5	ジョブ連携	△（WebAPI発行のみ）	×	○
6	リモートジョブ実行受付	×	×	○
7	Manager/HUBから管理	×	×	○
8	インターネット通信	○	○	×
9	ファイルトリガー	×	×	Enterprise版のみ
10	ネットワークファイル対応	○	×	Enterprise版のみ
11	AES暗号	○	○	オプション
12	クラウドストレージ連携	×	×	オプション

※ 各機能についてはマニュアル「機能説明書」にてご確認ください。
https://www.hulft.com/help/ja-jp/HULFT-V8/COM-FUN/Content/HULFT_FUN/preface.htm

HULFT10 for Container Servicesの基本機能（詳細）

機能概要			対応機能	対応検討機能
1	配信	転送タイプ	テキスト/バイナリ転送	フォーマット/マルチフォーマット転送
2		圧縮	DEFLATE圧縮	横圧縮/縦横圧縮
3		その他		シフトコードの扱い/配信多重度/間欠転送/転送優先度
4	集信	集信形態	単一集信	複数集信/世代管理/CSV連携
5		その他		集信多重度
6	集配信共通	コード変換	オープン系文字コード変換/コード変換先/ 自ホストの転送コードセット	レガシー文字コード変換/EBCDICセット/簡体字 文字コード変換/タブコードの扱い/外字処理
7		電文転送タイプの選択	速度優先モード	異常検知モード
8		その他		転送テスト/HULFT7通信モード
9	運用管理	操作ログ	処理識別子、ユーザの通知	コマンド実行ログ/ファイルアクセスログ
10	コマンド			複数ファイル結合機能/複数ファイル結合機能

※上記の情報は現時点のものであり、今後変更になる可能性があります。
検討中機能は、ユーザ要望に応じて順次取り込みを予定しています。

HULFT10 CLIの基本機能（詳細）

機能概要			対応機能	実装予定なし
1	配信	転送タイプ	テキスト/バイナリ転送	フォーマット/マルチフォーマット転送
2		圧縮	DEFLATE圧縮	横圧縮/縦横圧縮
3		その他		シフトコードの扱い/配信多重度/間欠転送/転送優先度
4	集信	集信形態	単一集信	複数集信、世代管理、CSV連携
5		その他		集信多重度
6	集配信共通	コード変換		オープン系文字コード変換 /レガシー文字コード変換/EBCDICセット/簡体字 文字コード変換/タブコードの扱い/外字処理/ コード変換先/自ホストの転送コードセット
7		電文転送タイプの選択	速度優先モード	異常検知モード
8		その他		転送テスト、HULFT7通信モード
9	運用管理	操作ログ	処理識別子、転送識別子、ユーザーの通知 (※コマンド標準としての出力)	コマンド実行ログ、ファイルアクセスログ
10	コマンド			複数ファイル結合機能、複数ファイル結合機能

※上記の情報は現時点のものであり、今後変更になる可能性があります。
検討中機能は、HULFT10 CLIの基本機能（詳細）を予定しています。

各製品との通信保証・連携互換性

項目	製品	HULFT10 for Container Services	HULFT10 CLI
通信保証	HULFT10	通信保証	
	HULFT8	通信保証※	転送不可
	HULFT7	転送不可	
	HULFT6-SAN/HULFT6 VOS/HULFT2 for K	転送不可	
	HULFT-WebConnect	転送不可(対応時期未定)	
	HULFT-HUB Ver.3(転送)	転送不可(対応時期未定)	転送不可
	HULFT IoT	転送不可	
管理可否	HULFT8 Manager	管理不可	
	HULFT-HUB Ver.3(管理)		
連携可否	DataSpider Servista	連携不可	
	DataMagic		
	HULFT-WebFileTransfer	連携不可	
	HDC-EDI		

※UNIX/zLinux/NSK/IBMi/MSP/XSP/zOS版は、対応時期未定。

※上記の情報は現時点のものであり、今後変更になる可能性があります。

環境一覧（HULFT10 for Container Services）

対応ブラウザ

Google Chrome

Microsoft Edge

稼働環境		対応
AWS Elastic Container Service	Amazon EC2	○
	AWS Fargate	×
AWS Elastic Kubernetes Service		×
AWS Lambda		×
AWS Batch		×

※ 順次サポート対象の拡充を予定しています。
また上記の情報は現時点のものであり、今後変更になる可能性があります。

HULFT10環境構成について

①事前準備・設定

Route53でドメインとホストゾーンの作成,ACM証明書発行,IAM作成

②CloudFormation1

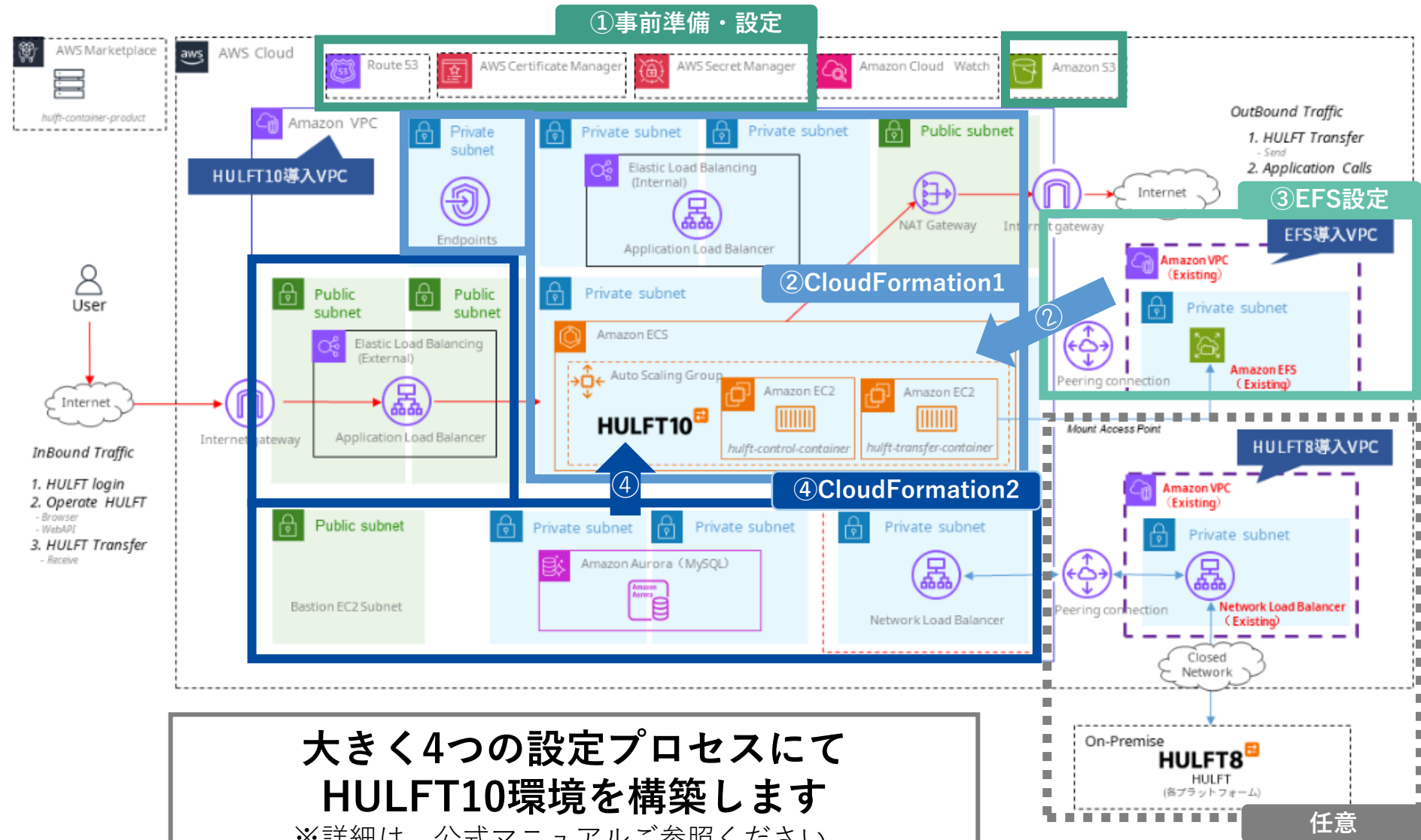
新規VPC作成、ネットワーク設定、既存VPCとPeering設定

③EFS導入VPC設定

ルートテーブルやセキュリティグループの設定

④CloudFormation2

ECS,AuroraDB,ALBをHULFT10導入VPCにデプロイ





< 免責条項 >

本資料の内容は、資料作成時点の当社の判断に基づいて作成されているものであり、今後予告なしに変更されることがあります。よって本資料使用の結果生じたいかなる損害についても、当社は一切責任を負いません。

また、本資料の無断での複製、転送等を行わないようお願いいたします。

なお、本資料に記載されている会社名、製品名は各社の商標または登録商標です。